

京都市
放課後の過ごし方に関する調査
(小学校用)
【結果報告書】
(概要版)

令和元年 6 月

京都市

1 調査概要

(1) 目的

小学生の放課後の過ごし方の状況や、放課後に利用している事業に関するニーズを把握し、今後の本市の放課後児童施策の充実に向けた基礎資料とすること。

(2) 調査設計

調査対象者：市立小学校及び市立小中学校前期課程に通う1年生、4年生、6年生の全ての児童の保護者

調査期間：平成30年9月14日～9月28日

調査方法：学校を通じた配布、郵送回収

(3) 実施状況

	調査対象者 (配布数)	有効回収数	有効回収率
放課後の過ごし方に関する調査(小学校用)	31,696件	14,218件	44.9%

(参考：学年別内訳)

	配布数	有効回収数	有効回答率
1学年	10,309件	5,076件	49.2%
4学年	10,606件	4,564件	43.0%
6学年	10,781件	4,379件	40.6%
不明	-	199件	-

(4) 報告書の見方

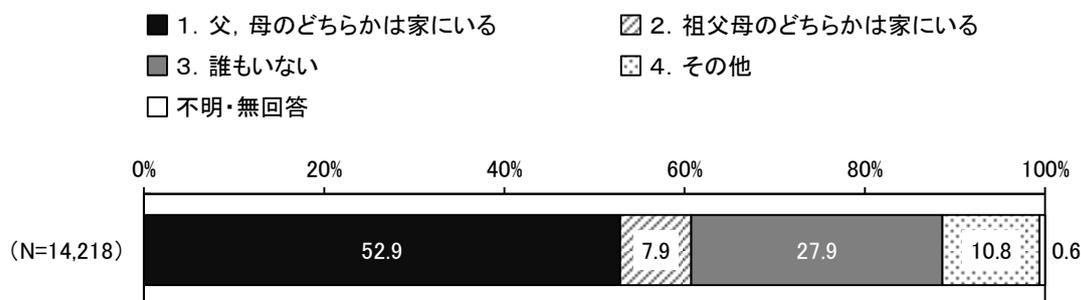
- ・ 回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ・ 複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ・ 図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、又は回答の判別が困難なものです。
- ・ 図表中の「N (number of case)」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。
- ・ 本文中の設問の選択肢について、長い文は簡略化している場合があります。
- ・ 設問によっては、結果を詳細に分析するため、クロス集計表を掲載しています。

2 主な調査結果

(1) 保護者の状況と児童の放課後の過ごし方の状況

ア 放課後の保護者の在宅状況（問1-2）

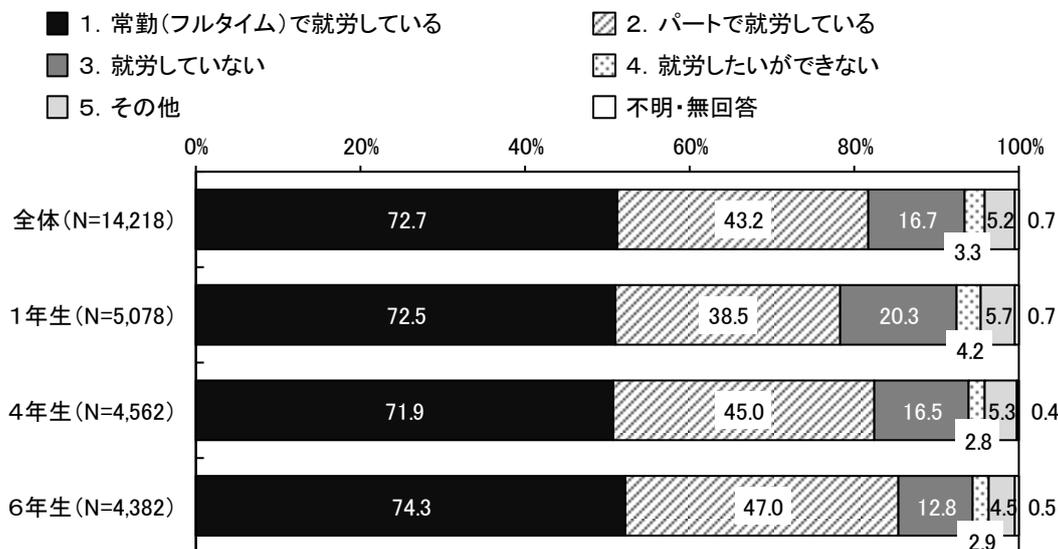
保護者の在宅状況については、父母のどちらかが家にいる世帯が全体の半分以上となっています。一方で、誰もいない世帯が3割弱を占めています。



イ 保護者の就労状況（問1-3：学年別）

学年が上がるほど、就労していない（「就労していない」と「就労したいができない」の合計）割合が低くなっています。

学年別

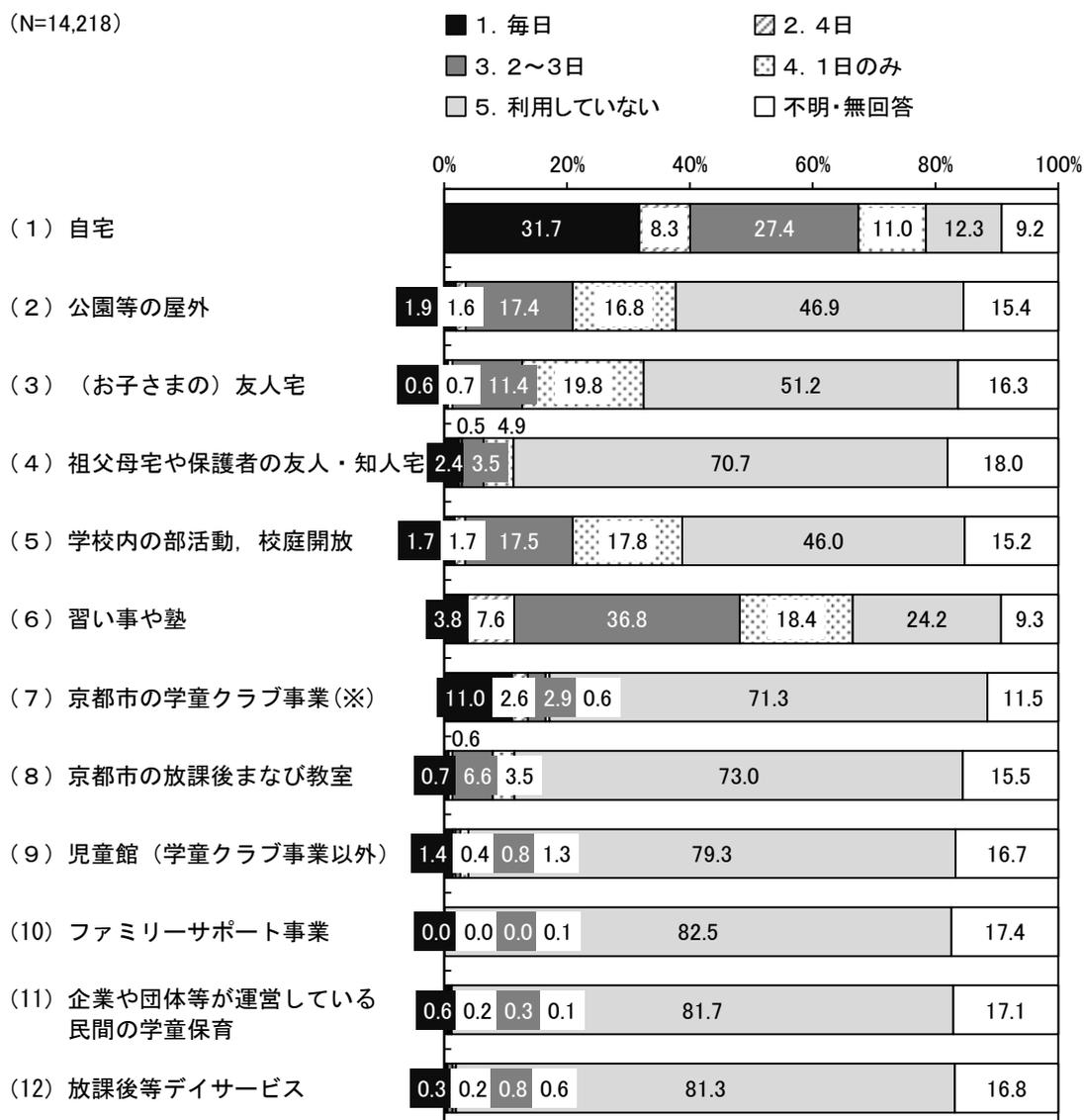


※不明・無回答除く

ウ 平日の放課後の時間を過ごす場所（問2-1）

子どもの平日の放課後の過ごし方は、自宅のほか、「習い事や塾」、「学校内の部活動・校庭開放」、「公園等の屋外」が多くなっています。

毎日過ごしている場所としては、自宅の次に京都市の学童クラブ事業が多く挙げられています。



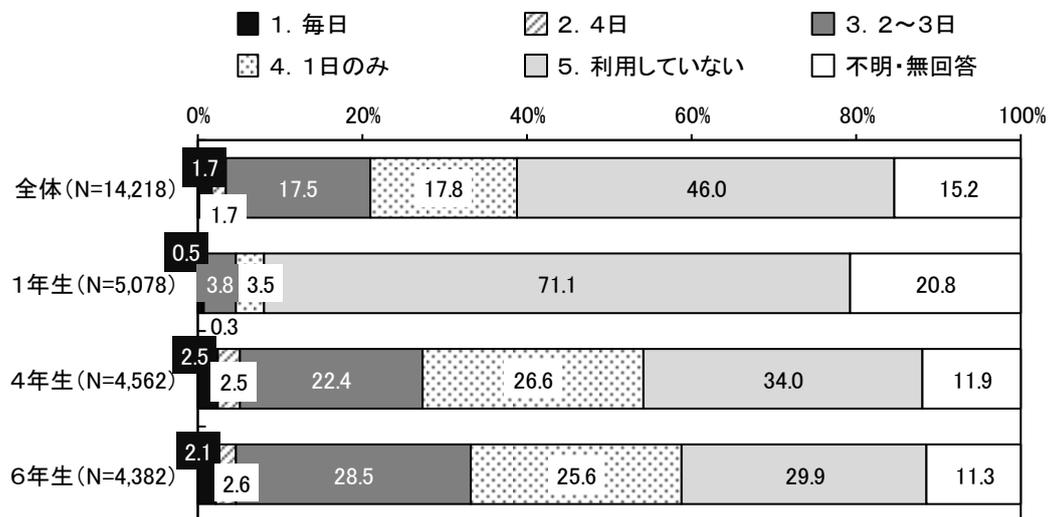
※本調査では学童クラブ事業に、放課後ほっと広場の学童クラブ機能（ゆうゆうクラブ）を含みます。

エ 学校内の部活動や校庭開放，習い事や塾（問2-1(5)）

学校内の部活動や校庭開放で過ごしている割合は学年が上がるほど高くなっています。

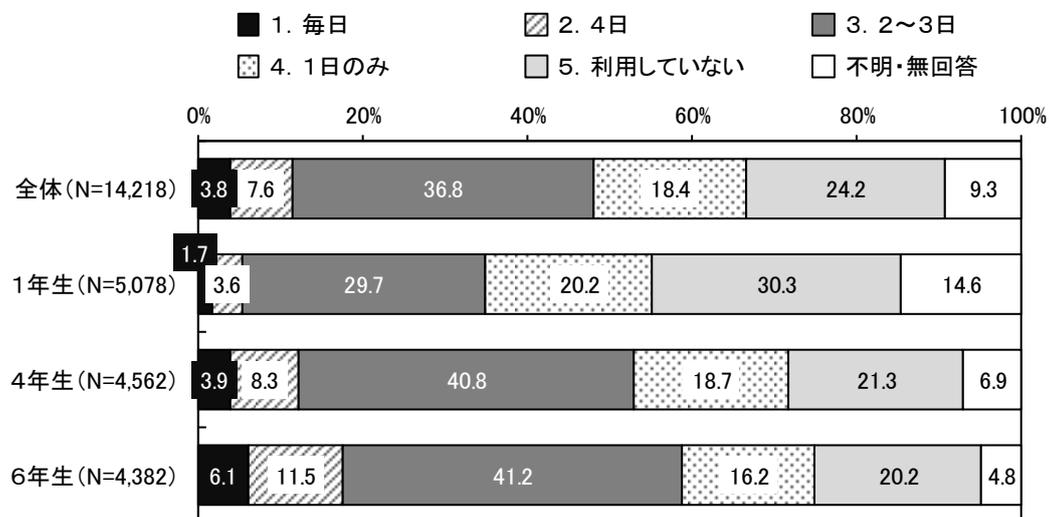
習い事や塾を利用している割合も学年が上がるほど高くなっています。

学校内の部活動，校庭開放 × 学年別



※不明・無回答除く

習い事や塾 × 学年別



※不明・無回答除く

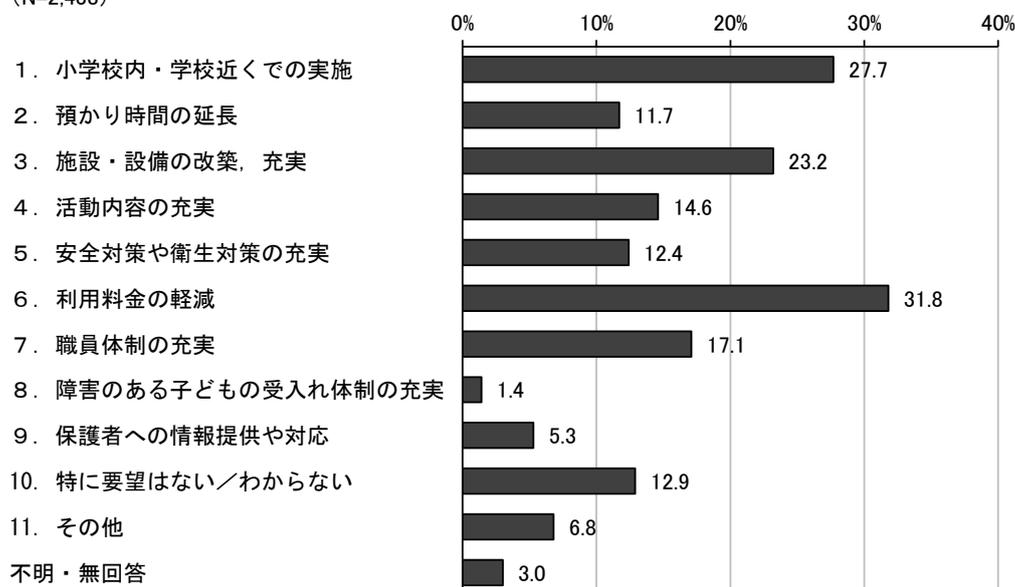
(2) 京都市の学童クラブ事業及び放課後まなび教室

○ 京都市の学童クラブ事業

ア 学童クラブ事業への要望（問4-1）

「利用料金の軽減」，「小学校内・学校近くでの実施」，「施設・設備の改築，充実」の順に多く挙げられています。

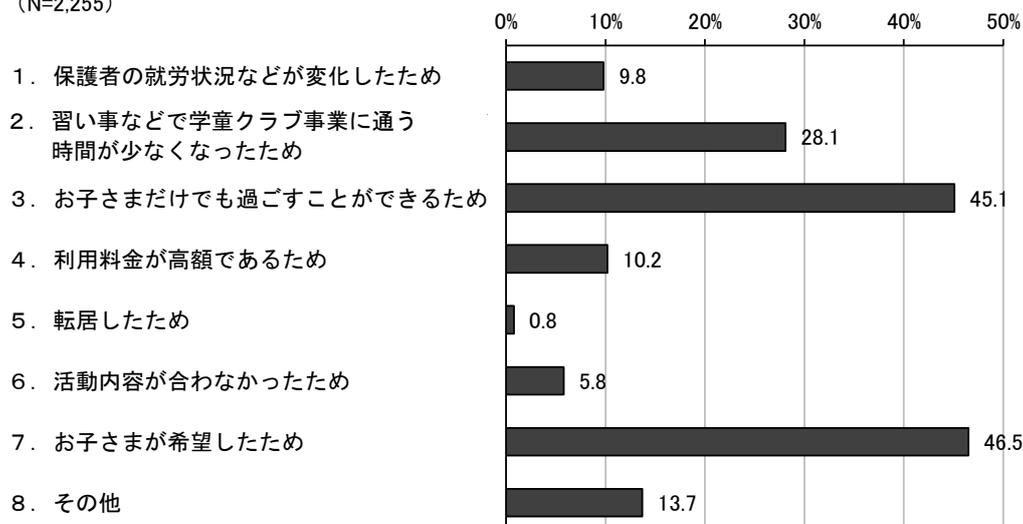
(N=2,438)



イ 学童クラブ事業を以前利用していたが退会した理由（問4-3）

「お子さまが希望したため」と「お子さまだけでも過ごすことができるため」が，ともに5割近く挙げられており，次いで「習い事などで学童クラブ事業に通う時間が少なくなったため」が多く挙げられています。

(N=2,255)



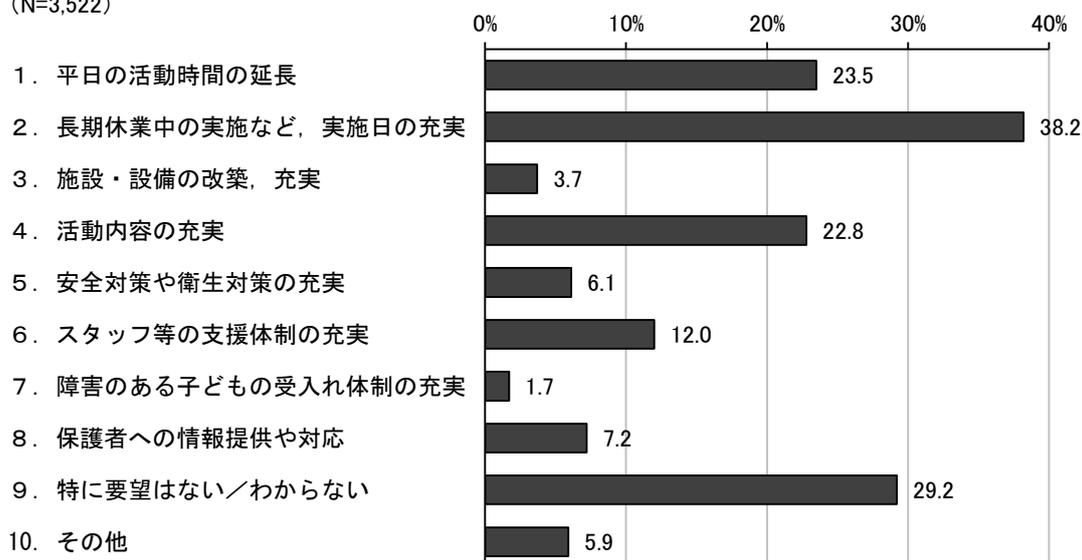
※不明・無回答除く

○ 放課後まなび教室

ア 放課後まなび教室への要望（問5-1）

「長期休業中の実施など，実施日の充実」が最も高く，次いで「特に要望はない／わからない」，「平日の活動時間の延長」，「活動内容の充実」が多く挙げられています。

(N=3,522)

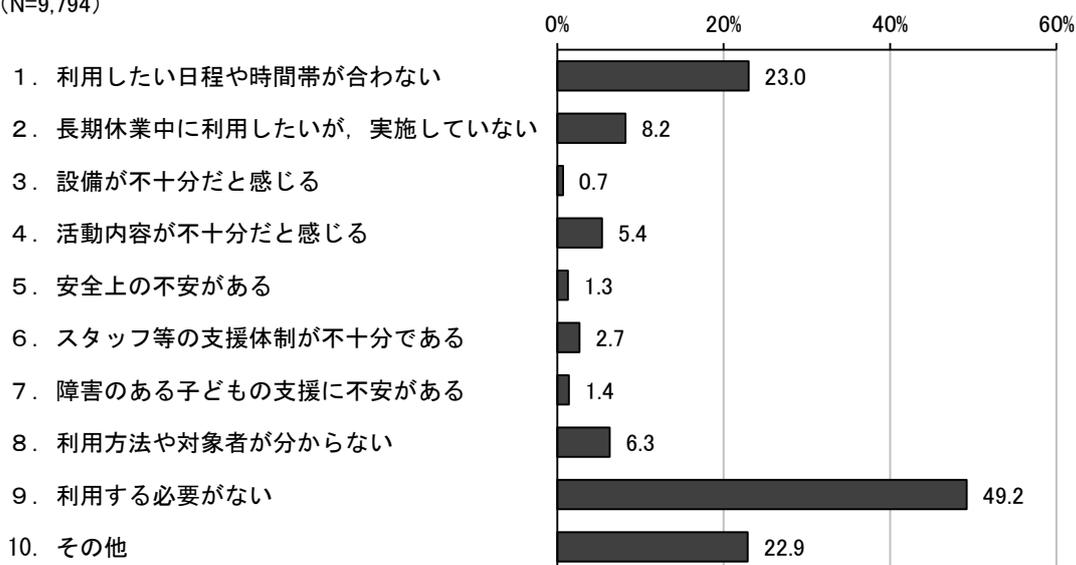


※不明・無回答除く

イ 放課後まなび教室を利用していない理由（問5-2）

「利用する必要がない」が最も多く挙げられており，次いで「利用したい日程や時間帯が合わない」が多く挙げられています。

(N=9,794)



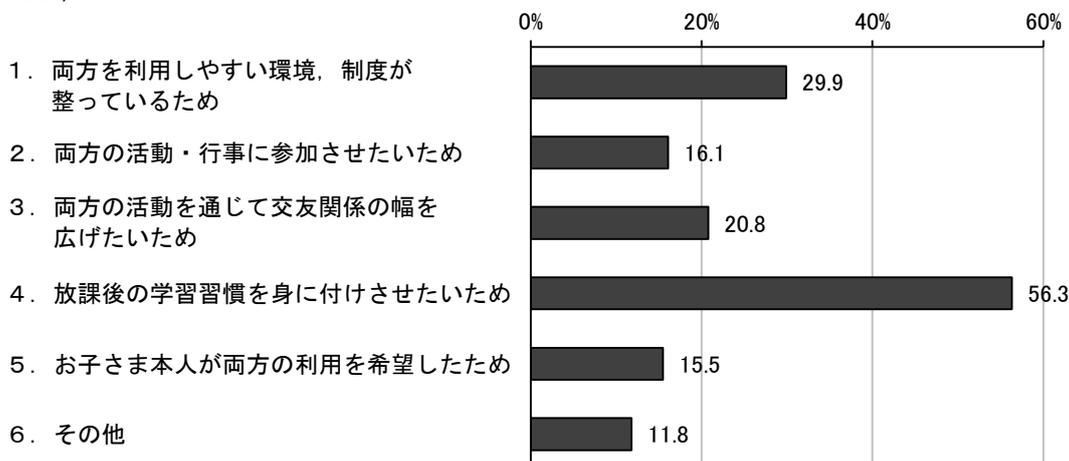
※不明・無回答除く

○ 京都市の学童クラブ事業と放課後まなび教室

ア 両方利用している理由（問6-1）

「放課後の学習習慣を身に付けさせたいため」が最も高く、次いで「両方を利用しやすい環境，制度が整っているため」が多く挙げられています。

(N=884)

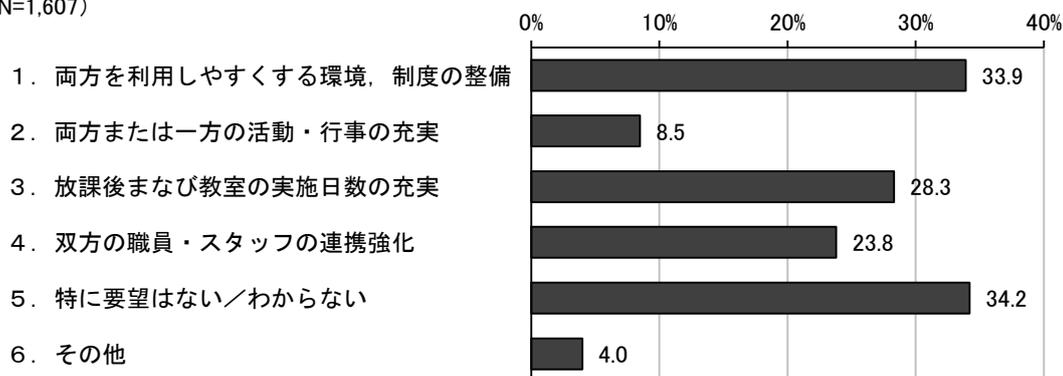


※不明・無回答除く

イ 両方利用することに当たっての要望（問6-2）

「特に要望はない／わからない」が最も高く、次いで「両方を利用しやすくする環境，制度の整備」，「放課後まなび教室の実施日数の充実」，「双方の職員・スタッフの連携強化」が多く挙げられています。

(N=1,607)



※不明・無回答除く

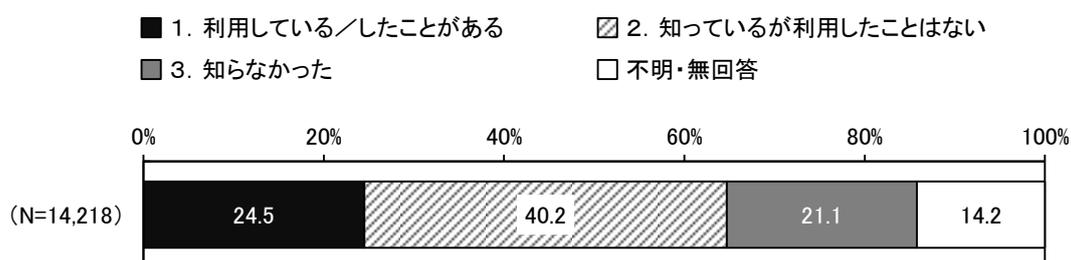
(3) 児童館（学童クラブ事業以外での利用）

ア 学童クラブ事業以外での児童館の利用

学童クラブ事業以外の活動の認知度（問7-1）では、「知っているが利用したことはない」が最も高く、次いで「利用している／したことがある」が多く挙げられています。

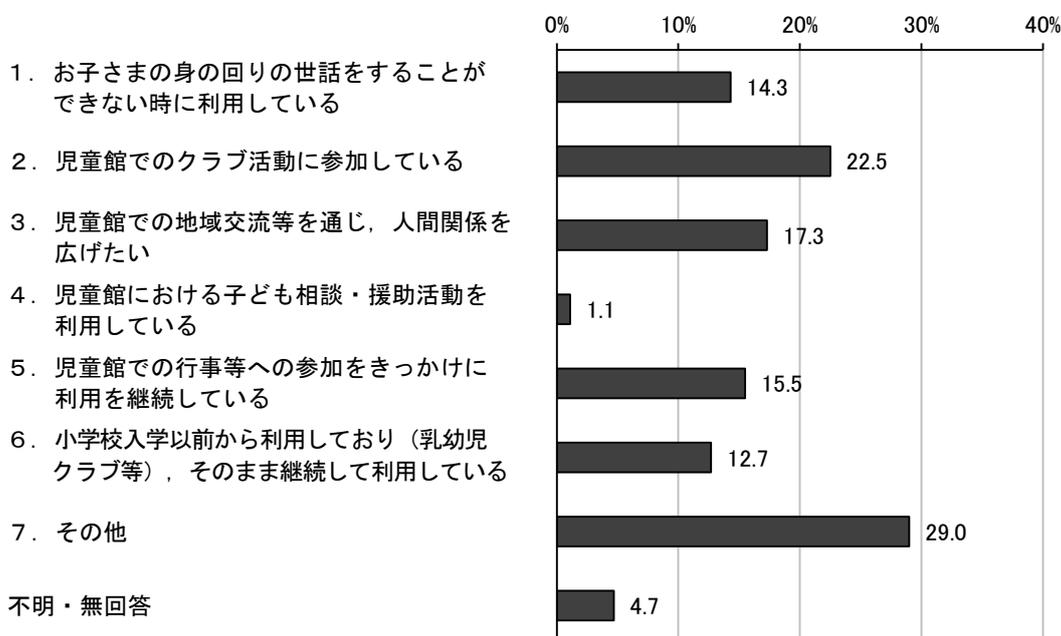
利用している、利用したことがある理由（問7-2）については、「児童館でのクラブ活動に参加している」が多く挙げられており、次いで「児童館での地域交流等を通じ、人間関係を広げたい」、「児童館での行事等への参加をきっかけに利用を継続している」が多く挙げられています。

【児童館において、学童クラブ事業以外に、子どもを育成する活動を行っていることを知っているか】



【児童館を利用している理由】

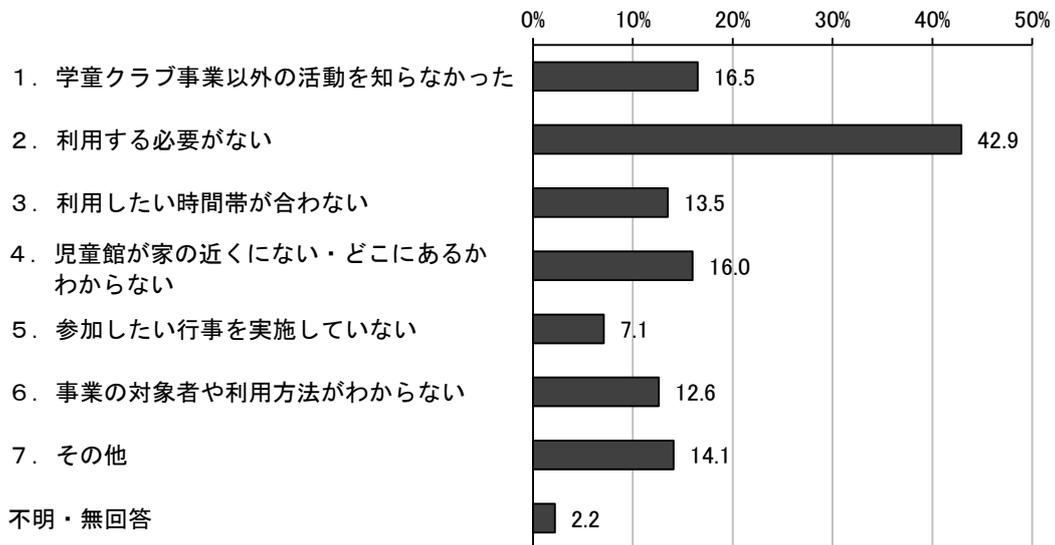
(N=3,487)



イ 児童館を利用していない理由（問7-3）

「利用する必要がない」が最も多く挙げられています。一方、「学童クラブ事業以外の活動を知らなかった」、「児童館が家の近くにない・どこにあるかわからない」もともに多く挙げられています。

(N=8,712)

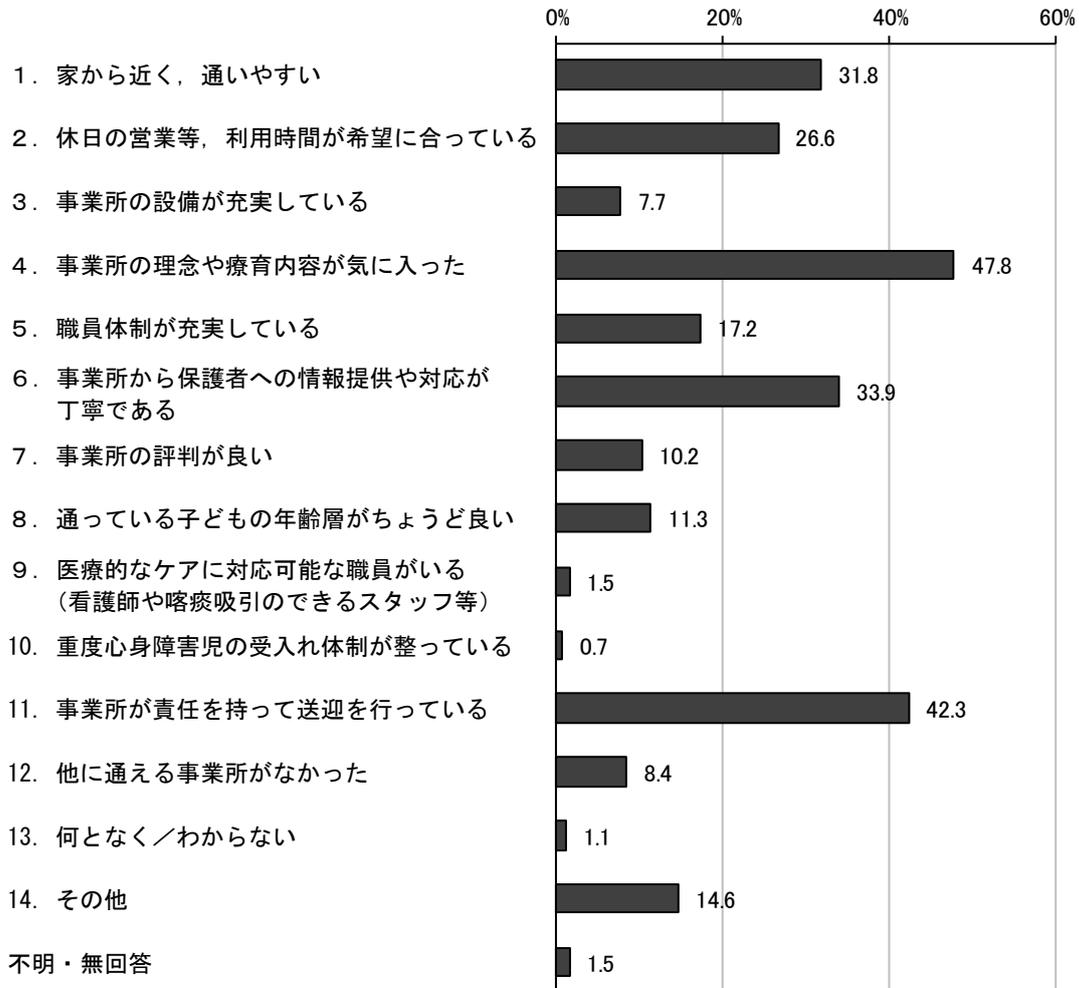


(4) 放課後等デイサービス

ア 現在通っている事業所を選んだ理由（問8-1）

「事業所の理念や療育内容が気に入った」が最も高く、次いで「事業所が責任を持って送迎を行っている」，「事業所から保護者への情報提供や対応が丁寧である」，「家から近く，通いやすい」が多く挙げられています。

(N=274)



イ 現在通っている事業所に対する要望（問8-2）

「療育内容の充実」が最も多く、次いで「機能訓練ができる職員（理学療法士や作業療法士等）の配置」が多く挙げられています。

(N=274)

